

情勢報告（平成 28 年 11 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

株式会社 れいほく未来の経営の安定・拡大を目指して！！



問題点を掘り下げ、助言します！

（株）れいほく未来の経営改善を目指し、10月26日に今年度第3回目の検討会を、普及所で開催しました。

会は、現在栽培している園芸品目の状況や販売実績を把握して、次年度の栽培計画や経営改善につなげていこうというもので、役員と職員1人が、普及所からは関係職員9人が参加し協議しました。また、研修生受入機関としての指導体制や指導内容についても併せて議論しました。

会を通して、販売目標額の達成に向けた労働力不足や労務管理などの問題点が浮き彫りとなり、その対応策や課題も明確になってきました。

普及所は、引き続き研修生や職員に対しての農業基礎講座の開催や来作での部門毎の経営改善に向け、重点的に支援していきます。

「第20回全国農業担い手サミットinこうち」に向けた第2回嶺北地域実行委員会を開催



現地研修会では、3コースを検討

平成29年度全国農業担い手サミットの開催に向けた第2回嶺北地域実行委員会を10月28日、普及所で開催しました。

会には、農家代表の委員やJA・町村の関係機関と普及職員など11人が参加し、来年度の情報交換会や現地研修会の視察コース等について、具体的な内容を検討し、今後のスケジュールについても情報共有しました。

委員からは、「地域食材を使った料理を提供したい」「情報交換会への農家の参加については、バスの借上げが出来ないか」などの提案がありました。

普及所は、委員からの意見や今年の岐阜県でのサミットに参加して得られた情報を参考にし、来年度開催に向けた準備を進めていきます。

地域を越えて共に学ぼう～米ナス生産者交流会～



米ナス生産者交流会の様子

JA土佐れいほく米ナス部会は10月31日に、JA津野山営農センター「輝（かがやき）」で開催された県内の米ナス産地の生産者交流会に3人参加し、部会活動や産地間の栽培技術等の情報共有を行いました。

普及所からは、土壌改良資材施用実証の中間結果を報告しました。参加者からは、土壌中の微生物を活用した病害防除に期待する意見が出ました。

普及所は、今後も交流会等を通じて栽培技術に関する情報提供を行い、栽培技術の改善を支援していきます。

さらに、さらに仕事の効率を上げる普及指導活動実践へ～職場研修会開催～



効率よく報連相が出来るのかグループワークで実践

11月2日、普及所、中央東農業振興センター、中央家畜保健衛生所嶺北支所、環境農業推進課の職員18人が参加し、人事課からの派遣講師による職場研修「効率的な仕事の進め方」を普及所で開催しました。

職員からは、「仕事を効率的に進めるためには、先を読み、早めに動き、環境を作り出すプロアクティブな行動が必要であることが解った」「同じ職場の仲間同士で研修を受けることで、より有意義な研修となった」などの意見が出ました。

農業・農村の振興のため、今後も限られた時間を有効に活用し、正確・迅速に対応できるマネジメント力、短時間で効率的・効果的な報連相や会議ができるコミュニケーション力を発揮した普及指導活動に取り組みます。

ユズのオランダ向け輸出作業を開始



1個ずつ選別しながら箱詰め

11月4日にJA土佐れいほく集出荷場でオランダへの輸出に向けたユズの箱詰め作業を行いました。

生産者、JAや普及所の職員など18人が参加し、植物防疫所の防疫官が病害虫の有無を検査した後、手分けして殺菌、乾燥処理、1個ずつ規格を確認しながらの箱詰め作業を行いました。この日箱詰めしたのは252kgでしたが、11月末までにあと3回、合計1.3tの輸出を計画しています。

JA担当者は「ユズ玉を輸出することで品質のアピールになる。今後は加工品も含めた海外での販路拡大に取り組みたい」と話しており、普及所はこの取組を全面的に支援していくことにしています。

病害診断のスキルアップを目指して



病害診断方法を勉強中

JA土佐れいほく営農販売課と普及所は、毎月2回営農連絡会を開催し、活動の情報共有や栽培技術向上のための勉強会等を行っています。

11月11日には病害虫防除所から講師を招き、近年県内で問題になっている病害虫の情報や病害診断方法について、普及所で研修会を開催し、8人が参加しました。

普及所からは現地で採取した病害標本（ショウガ）を提供し、検鏡による病害診断を行いました。参加した若手営農指導員からは「基本的な病害診断方法が良くわかった」との声が聞かれました。

普及所はこれからも普及職員や営農指導員のスキルアップを図り、地域の農作物の栽培技術の向上を目指します。

まもなくチョロギ収穫～伊勢川営農組合～



チョロギはできているかなあ？

土佐町の伊勢川営農組合では、集落内のハウスの一部と耕作放棄地（露地）を活用して、昨年からチョロギの栽培に取り組んでいます。今年度の収穫時期を検討するため、11月21日に数株収穫し、生育状況を確認しました。

昨年と比較すると、病害虫が発生したため収穫量が減少する見込みですが、計画的な収穫、販売に向けて準備を行っていくこととなりました。

普及所は、12月4日予定のチョロギを活用した収穫体験イベントの開催支援とともに、計画的な販売にむけた活動支援を行っていきます。